



幼稚園は教育、保育園は預かってもらうだけ、ということがかつては言われたのでしょいか。ある地位のある方がそうおっしゃったのは、そういう前提なのでしょいか。保育園も幼稚園に負けない教育をやっているよ、といったのではありません。保育園であろうが幼稚園であろうが一緒である、保育をしつかりやらなくてはならないのです。保育というのは養護と教育を含んでいると指摘されます。養護というのは愛情を持って大切に育てることです。ここで言う「信ずる心を育てる」ことです。また、ここでいう教育は学校教育のことではありません。親が子どもの自立のために教えていくこと、たとえば、小さいときはトイレ、食事などを教えていく、他の人との関わり方など、難しいことではありません、普通に大人がやっていることを教えていくことを言います。

親はどうしてもわが子が少しでも早く教育を受けて、いい高校、いい大学に入れ、安定した生活をさせたいと考えます。それがためには少しでも早く勉強の習慣をつけ、学教でいい成績を取れるようにと考えます。しかし、あまり早いとどこかで躓きます。小中学校で常に上位にいても、高校へ入っていくと同じレベルの子どもたちばかりです。そんな中でただ成績だけの競争にさらされると、下位の子どもたちは劣等感に苛まれ、自己を肯定することが出来なくなってしまう。どんな成績であろうと自己肯定していきける心は、この時期では困難になります。家族、ご両親が上手に受け止めていくことが出来るならば、救いようがあります、ただただ勉強せー！の連呼はますます自己否定の底に落ちていきます。

以前にも書きましたが、小学一年生で学力の差が付いていても、三、四年生になると、その差は無くなるというところまで指摘されています。つまり、保育園時代は外で力一杯元気に遊ぶことが一番大切なようです。幼稚園児でもこども園の園児でも全く一緒です。

少しでも学校でいい成績をと願うのが親です。しかし、それだけでいいのでしょうか。慈しみ合う心、他の人を大切に思う心をもっと大事ではないでしょうか。自分さえ良ければいいというのは、全ての人の正直な心ですが、この心でいくらいいい成績を取っても、幸せな人生があるのかというと難しい。自分さえいいという根性ですから、慈しむ心、他の人を大切に思う心は常に犠牲になり、家族さえ犠牲になることが出てくるのでしょうか。

どんな子に育てたいのか、いろいろと親は思いますが、そのとおりになることは難しいことです。しかし、どんな子であれ、自分を大切に思い、他の人を大切に思う、そんな子を育てたいと思いませんか。園長先生のところの子は4人いるそうですが、そういう子に育っていますか、と問われたとき、むーと考え込んでしまいましたが、少しは親のことも考えていてくれるようです。それはともあれ、今生きている私がそのような心を意識して生きたいと思っております。